

令和元年度 奈良県立五條高等学校（賀名生分校）学校評価総括表

<p>学校経営方針</p>	<p>「行きたい」「行かせたい」「来てよかった」と思える魅力ある学校づくり ～「夢」「希望」そして「挑戦」～</p> <p>本校では、将来の目標を見据えて、「社会で自立して生き抜く力の育成」を目指し、「未来につながる確かな学力」、「豊かな心で人と連なるコミュニケーション能力」、「困難に打ち克つ体力・忍耐力・規範意識の向上」に努める。そのため生徒それぞれに、「夢」、「希望」、そして「挑戦」をキーワードとして生徒自らが主体的に取り組む態度を育成する。</p>	<p>総合評価</p>			
<p>前年度の成果と課題</p>	<p>これまで、創造的で独創的な多くの取組みを積極的に実践することによって ①『学校の魅力づくり』 ②『入学生徒の確保』 を学校経営の主眼として学校の活性化に取り組んできた。今、奈良県南部・地元五條市等の少子化の進行で不安定要素が大きくなっている。今までの取組みを通して明らかになった課題を整理することで、農業の担い手の育成やスキルアップを図るなどの改善点が見えてきた。 平成30年度から全国募集を始め、新たな学校としてよりよく生まれ変わるため、県内外から入学する生徒・保護者や地域の期待に応えるべく、計画の充実をさらに図る必要がある。</p>	<p>B</p>			
<p>本年度の重点目標</p> <p>具体的目標 ○主な具体的方策</p>	<p>評価の指標（担当）等</p>	<p>自己評価</p>	<p>成果と課題</p>	<p>改善方策等</p>	<p>学校関係者評価</p>
<p>1 魅力ある進路実現 ～進路指導をはじめ魅力ある進路実現への対応～</p>					
<p>(1) わかる授業の展開 (2) 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善 ①静かで落ち着いた学習環境づくり ○学習活動の工夫を図る。 ②魅力ある授業の創造 ○基礎・基本の定着 (3)進路保障にかかわる取組の充実 ○計画的・系統的な進路指導</p>	<p>⇒生徒アンケート「授業や課題、小テスト等に取り組むことで、うまく学習を進めることができている。」（教務部） 本年度<目標:80%></p> <p>⇒保護者アンケート「授業の内容や進め方に満足している」（教務部） 本年度<目標:80%></p> <p>⇒生徒アンケート(第4学年)「自分の希望する進路実現ができた」（進路指導部） 本年度<目標:90%以上></p> <p>⇒生徒アンケート(全学年)「生徒一人ひとりの進路に応じて、丁寧な指導が行われている」（進路指導部） 本年度<目標:90%></p>	<p>78% 100% 75% 72%</p>	<p>B A B B</p> <p>・本年度の目標を達成できなかった。生徒の様子を観察しながら、うまく学習を進められるような方法を検討していきたい。 ・本年度の目標を達成することができた。 ・進路決定できた生徒がいる一方、未決定の生徒もいる。卒業後の生活を見据えて指導していきたい。 ・支援を必要とする生徒の進路実現に向けての体制がまだ不十分である。</p>	<p>・生徒の学力差が大きく、難しい面もあるが、課題、小テストの内容を見直し、生徒の実情に応じたものにする。 ・生徒の個別対応を担当とともに継続的に行い、進路指導を行う。また保護者やハローワークと連携し、進路実現につなげる。</p>	<p>承認（※）</p> <p>※ 令和2年3月3日に、第2回運営協議会を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止とした。 本資料に関しては、同年2月18日付けで各委員に発送しており、この間、各委員から特に御意見はなかった。 したがって、学校関係者評価は「承認」として扱うこととする。</p>
<p>2 充実した学校生活 ～学校行事の充実と部活動の活性化～</p>					
<p>(1) 学校行事の精選と内容の充実 (2) 部活動の活性化 ①心身の健康保持、増進 ②体験活動の充実と忍耐力の育成 ③コミュニケーション能力の向上</p>	<p>⇒部活動加入率（生徒指導部） 本年度<目標:50%></p> <p>⇒各体育行事の参加率（保健体育部） 本年度<目標:95%></p> <p>⇒生活体験発表会への参加（教務部） 本年度<目標:全員></p>	<p>42% 97% 100%</p>	<p>B A A</p> <p>・本年度の目標は達成できなかったが、各部活動での大会参加は充実してきている。活動日を十分に確保できなかったこと、人数不足のため、活動に至れない部もあったのが課題である。 ・本年度の目標を達成できた。 ・生活体験発表について、全員参加できた。また、3年生が県大会で最優秀を、全国大会でメイ・ウシヤマ賞を受賞した。</p>	<p>・勧誘活動や他の部活動からの人数不足への支援などができる限り増やしていく。また、活動日を確保し、部活動の様子を知ってもらう。 ・自分の思いを作文にまとめたり、他人の思いを知ることの大切さも生徒たちに理解させたい。</p>	
<p>3 安心して通える（通わせる）ことができる学校づくり ～きめ細やかな生徒への対応と生徒指導の充実～</p>					
<p>(1) 日頃から生徒及び保護者との関わりを大切にする (2) 共通理解、同一歩調、全校体制で指導にあたる ①積極的生徒指導の推進 ②人権教育の推進 ③規範意識の醸成 ④地域貢献活動による生徒の主体的活動の推進 ⑤現場実習等により社会性の醸成と正しい勤労観の育成</p>	<p>⇒生徒アンケート「生徒会・ボランティアの活動は活発で、関心が持てる内容である」（生徒指導部） 本年度<目標:80%></p> <p>⇒事件数・違反件数（生徒指導部） 本年度<目標:0件></p>	<p>60% 1件</p>	<p>C B</p> <p>・生徒会活動やボランティア活動においては、地域交流を通して積極的に参加している生徒が多いが、一方無関心な生徒は全く関わっていないのが現状である。 ・本校はほとんどの生徒がバス通学のため登下校については、交通違反や事故はなかったが、無断免許取得でバイク事故が1件あった。</p>	<p>・本年度の目標としていた80%には及ばなかったが、年々増加しつつある、来年度は、生徒会や地域交流を早い段階から設定し、今年度の成果を生徒たちに訴え、興味関心が持てるように工夫していく。 ・今以上に通学路の安全点検及び巡視を強化し、命を守ることの重要性を生徒たちに徹底させる。</p>	

4 外部との連携・情報発信の強化 ～開かれた学校・地域とともにある学校～							
①五條市・五條市教育委員会・地元自治会・老人会等との連携 地元幼稚園との連携強化	⇒地元行事への積極的参加 ⇒農業クラブ・家庭クラブとの交流	本年度<目標:5回> 本年度<目標:10回>	5回 18回	A A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会役員について、今後も寮生が多くなるので、役員選出が難しい。 ・ブログ発信者を2名体制に増やしたことで、様々な視点からの発信ができ、平均アクセス数が飛躍的に伸びた。 ・第4回全国農業学校HPコンテストで奈良県代表に選出された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会参加行事については、日程を見直し、少しでも参加しやすい日程を組む必要がある。 ・これからも様々な視点で、学校や生徒の様子を伝えていきたい。
②学校・家庭・地域・関係機関との連携強化	⇒学校行事への育友会会員の参加者数（総務部）	本年度<目標:10%>	19%				
③入学希望者数の確保	⇒学校ブログ年間更新回数（総務部）	本年度<目標:220回>	285回				
④ホームページの充実	⇒ホームページでの情報発信（総務部）	本年度<目標:年間20回>	20回				

各分掌等の評価計画

分掌等	具体的目標	具体的方策	評価の指標等	自己評価	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価	
総務部	4-② ○学校関係者への情報発信の充実に努め、積極的な意見聴取を行うことにより、学校・家庭・地域の連携をより強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会・同窓会等との連携を密にし、学校運営に対する協力・援助を求める。 ・育友会役員会の在り方を工夫し、参加しやすい状況を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会・同窓会の定例会に参加し、機会に応じて学校との交流を図る。 ・育友会の学校行事への参加意識を高める。 	19%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会の行事への参加は、創立70周年に向けて実行委員会を立ち上げ、同窓会・育友会役員にも協力いただいた。次年度も引き続き実行委員会として協力を求めていき、5月の式典に向けて準備を整えたい。 ・全国募集に伴い、育友会会員も遠方に広がるため、今後も会員の行事参加は日程を考えると難しい状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創立70周年記念事業に向けて、しっかりと準備を整える必要がある。 ・育友会参加行事については、日程を見直し、少しでも参加しやすい日程を組む必要がある。 	
	4-②③ ○中学生やその保護者を対象に賀名生分校の魅力の情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・賀名生分校紹介のパンフレット等を作成する。 ・学校説明会（中学校・保護者等）を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・賀名生分校独自のパンフレットの内容を改訂し、県内全中学校に配布する。 ・機会あるごとに説明会を開催し、中学校訪問等も実施し、賀名生分校の特色を理解してもらう。年間5回以上 	3回	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個々での学校訪問に随時対応し、農業科の特色を広めることができたが、中学校訪問は実施していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、中学校訪問を計画する。 	
	4-③ ○中学生に本校の様子について体験できる機会を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の高校見学を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月第3土曜、11月第3土曜に開催する。 	58人	A	<ul style="list-style-type: none"> ・3回実施した学校説明会に中学生58人、保護者・教員を含めると141人の参加があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問は、在校生出身の中学校を実施し、学校での様子を含め、農業科の特色を理解してもらうよう努める。 	
	4-① ○地元幼稚園との交流。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校へ招待したり、定期的に訪問し、交流の機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい健康祭や、食育活動・農業実習等、機会に応じて交流を図る 	18回	A	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの農業実習に加え、幼稚園の行事にも定期的に参加し、交流を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園児の少人数化に伴い、訪問体制も考える必要がある。 	
	4-④ ○学校ホームページやブログを充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの充実を図り、保護者等にリアルタイムで学校の状況を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の様子をリアルタイムで伝え、情報をタイムリーに発信する。内容の充実を図り、アクセス数を増やす。 	1万	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログ発信者を2名体制に増やしたことで、様々な視点からの発信ができ、平均アクセス数が飛躍的に伸びた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも様々な視点で、学校や生徒の様子を伝えていきたい。 	
教務部	1-(2)-① ○座学と実習の時間割配置の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然を生かし、落ち着いて学習に取り組める環境づくりに努める。 ・各教科・科目とも基礎・基本の確実な定着を図り、一人ひとりの生徒のもつ能力を最大限発揮できるよう、指導法・教材の工夫改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた環境の中、シラバスによる「わかる授業」を展開し、主体的に学ぶ姿勢づくりに努め、出席率の向上をめざす。 	96%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率については、寮生が多く、舎監の指導もあり、欠席は少なかった。 ・「わかる授業か」については、生徒アンケートで「そう思う」と答えた生徒は7割であった。 ・一方、同アンケートで「落ち着いて授業に取り組んでいるか」の問いに、「そう思わない」と6割の生徒が答えており、こうした状況の改善を図ることが今後の課題となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学力傾向、療育手帳を持っている等、さまざまな課題を抱える生徒が混在しており、教員の指導どおりに行動できない生徒も多いので、分掌間で協力して、授業や休み時間等における生徒の様子への把握に努め、職員全体で落ち着いた雰囲気づくりに努める。 	
			<ul style="list-style-type: none"> ・「学習の仕方」が身に付く授業を目指し、成績不振科目保持率の減少に努める。学期末等には補充学習を実施する。 	10%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、学習した内容をプリントや小テストで確認させる等の取組の結果、成績不振科目保持率については、本年度の目標を達成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が学習に対して持つ困り感を把握し、職員で情報共有しながら、生徒の実態に応じた指導に取り組む。 	

			<ul style="list-style-type: none"> 学校行事等の意義の確認を徹底し、出席率の向上を図る。 	96%	A	<ul style="list-style-type: none"> 健康祭、校内生活体験発表会、体育大会、校外学習、マラソン大会等の行事について、出席率96%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の意義の確認について、来年度は行事の実施日前にSHR等の機会を通じて徹底をはかる。 	
	2-(2)-② 4-① ○地域との連携による社会性の醸成などに努める	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学習形態、個に応じた指導の改善・充実を図る。 「魅力的で活気ある学校」を創造し、しっかり登校できる生徒を増やし、生徒にとって輝きのある学校を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域等を含めて、広く学習の場とする。特に地域と連携する取り組みを増やし、生徒や保護者に説明できる適切な評価を行う。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域のお祭り等のイベントにボランティアで参加し、地域の方からまた参加して欲しいとの声をいただくなど、地域との連携を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事への参加について、行事の予定日・内容について、生徒用の行事予定に入れるなど、行事の参加者が増えるような手立てを考える。 	
			<ul style="list-style-type: none"> 教育課程上のみならず、様々な学習機会を通して、生徒の育成を図っていく。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事にボランティアで参加することにより、大きな声で挨拶ができるようになるなど、何事にも積極的に取り組めるようになった生徒もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度もふれあい健康祭、地域の行事へのボランティア参加を継続し、地域の人との係わりを通して、生徒が成長できる取組を進めていく。 	
生徒指導部	3-(2)-③ ○規範意識の向上と基本的生活習慣の確立。	<ul style="list-style-type: none"> 全体指導や個別指導、家庭との連携を通して、服装・生活態度・礼儀・挨拶・時間の遵守など日常生活に拘わる基本的ルールを守る姿勢を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 昇降口指導（服装・頭髪等）を年10回以上行う。 特別指導（訓戒）の件数を昨年以下（年間10件）におさえるよう日々の指導に努める。 	10回 15件	B	<ul style="list-style-type: none"> 全国募集2年目にともない全校生徒の数も増え、各行事や生徒会活動にも活気が出てきた。反面、多様な生徒の数も増え、問題行動も多くなった。特別指導の数も10件を大きく上回った。 受け入れ農家との情報交換も農家周りなどを通して出来た反面、トラブルになることもあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 早期の生徒動向の把握。些細なことも見逃さず、積極的に生徒に声掛けをし、保護者や寮にも迅速に連絡する。 入学してくる生徒が、本当に農業を目指し、取り組もうとしているのか、学校生活を送る上での規範意識を持って入ってくるのかを見極めることも必要になってくる。 	
	3-(2)-① ○複雑で多様化している生徒とそれに伴う問題行動の多様化に対する指導の確立。	<ul style="list-style-type: none"> 教員間の報告・連絡・相談を重視し、諸課題について教員間の共通理解を図る。 いじめの防止等のための基本方針に基づき、いじめの防止、早期発見につとめ、組織的な対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動などの早期発見のため、登下校、授業中、放課後などの巡視を毎日実施する。 個人別生活カードの円滑な運用を図る。 問題事象については、メモをとり保存することを徹底する。 		B	<ul style="list-style-type: none"> 五條市教育委員会、桜花寮、学校との連絡報告会も一月に一度行い、問題生徒の寮での生活や学校生活の様子など話し合えたことも有意義であった。しかし、教員間の情報共有があまり出来なかったことや、早期発見できず、指導が後手に回ってしまったことや寮との連携不足も拒めなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> SC、SSWの配置、少なくとも一週間に一度は来校して欲しい。 教員一人ひとりのスキル向上に努めるため、アドバイザーと連絡を取り、できる限り研修会を行う。 五條市教育委員会、寮、学校の三者会議の前に職員全体に提出する内容の打ち合わせをしておく。 	
	3-(1) 4-① ○保護者や各関係機関との連携を取り、生徒の状況に応じた適切な指導を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連絡・連携を密にする。 各関係機関との連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月の家庭訪問では、指導方針についての理解を求めるとともに、生徒の状況についての把握に努める。 生徒への声かけを積極的にを行い、円滑な人間関係を築いて、生徒の抱える問題の把握につとめる。 生活安全・規範意識の向上に関する講演会や研修を年1回以上開催する。 	1回	B	<ul style="list-style-type: none"> 4月当初、新入生の中学校訪問を行い、情報収集が出来たことは大きな成果があった。しかし、出身中学校の先生方の異動などがあり、中学校の詳しい情報がわからないこともあるので、3月中に中学校訪問をすることが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> 各関係機関へ積極的に足を運び、日頃から関係を密にしておく。 日頃から生徒一人ひとりの声に耳を傾け、早期対応に心がける。また、些細なことでも保護者に連絡連携を密にしておく。 スクールロイヤーの積極的な活用。 	
	3-(2)-① ○安全教育の推進。	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理や安全についての意識を高め、防犯や不審者の対応についての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 警察、消防署、各医療機関などと連携を図り、交通安全教室や薬物乱用、救命救急、大災害、防犯や不審者の対応について、学期ごと（年3回以上）に講演会、危機管理マニュアルを随時確認する。 	1回	B	<ul style="list-style-type: none"> 危険区域や交通安全マップの活用で、警察などと連携を図り、生徒の安全に取り組めた。しかし、寮での緊急対応において、学校との連絡連携が不十分なところが多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 県生徒指導支援室、警察、児童相談所、医療機関などとの連携を今以上に密にしておく。 	
進路指導部	1-(3) ○計画的・系統的・組織的に進路指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> より早い時期から卒業後の進路を意識させるホームルーム活動や、進路相談を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の進路目標を設定し、ホームルームにおける系統だった進路指導を実施する。 面接カードを作成し、生徒の振り返りに活用する。 進路ファイルを作成し、生徒の振り返りに活用する。 		B	<ul style="list-style-type: none"> 担任と連携し実施したが、4年間を見据えた系統だった進路ホームルームとはならなかった。 面接練習でカードを用いて全校的な体制がとれた。 進路ファイルは生徒のワークシートを残していくことで振り返りに活用できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にとって必要な進路ホームルームが実施できるよう業者の活用も考えていきたい。 ポートフォリオやキャリアパスポートにつながるワークシートを作成し進路ファイルを活用していく。 	
	1-(3) ○多様な生徒一人ひとりの進路の実現に向けて、明確な目的意識を持って生活させる。	<ul style="list-style-type: none"> 進路相談や意識調査を実施し生徒の希望を探り、意識を高める。 多様な生徒の進路を保障するため、関係機関との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導室を有効に活用し、随時、個別に相談を受けることができる態勢を整える。 ホームルームを利用し生徒の基礎学力を育成する。 支援が必要な生徒を安定した雇用(福祉就労A)に結び付ける手だてを構築する。 		B	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導室を有効に活用できなかったが、個別に対応することはできた。進路調査は各学年1回、3年生個別面談を行った。 ホームルームを利用して基礎 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査や個別面談、インターンシップを通じて進路実現に向けて意識を高める。 全国募集の生徒の就職に向 	

						学力の育成に努めたが、成果を確認するまでとはいかなかった。 ・保護者との連携で支援が必要な生徒の就労（福祉就労A）につながる手立てができた。	けて市教委と連携していく。 ・ホームルームだけでなく各教科と連携して基礎学力の育成につなげる。 ・3年生二学期の懇談において保護者と本人の進路希望を確認し4年次の進路実現につなげる。
	1-(3) 3-(2)-⑤ ○望ましい勤労観、職業観を身に付けさせる。そして、早期離職を未然に防ぎ、就職先への定着を高めキャリアを積ませる。	・卒業生のフォローを実施し、卒業生とその上司の意見を聴き、早期離職の防止を目指すと共に、進路指導にフィードバックさせる。 ・職場体験、インターンシップを適切に実施する。	・旧担任への協力を求め、定期的な状況調査の実施と卒業生就職先への訪問により可能な限り現状を把握する。 ・インターンシップの受け入れ先を新規に開拓し、生徒のニーズに対応する。 ・日誌、評価表を活用し事前指導・振り返りを充実させる。		A	・早期離職は0名（H31、3月卒業）。インターンシップ参加者は5名で3年生は全員参加した。日誌や評価表を使い振り返りを行うことができた。	・インターンシップを重ねるごとに希望の進路につながる機会となるように計画をしていく。
人権教育部	1-(2)-② 3-(2)-② ○職員の人権意識の資質向上を図る。	・人権教育推進に関する職員研修会を実施する。	・職員会議時の研修として、ホームルーム指導案の検討等をおこなう。 ・県主催の研修会等の案内、参加を呼びかける。		B	・人権をテーマとした映画会では「聴覚障害」について理解を深める機会とした。 「僕が君の耳になる」という耳の聞こえない女性と聞こえる男性の実話であり、視聴後の感想より成果を感じることができた。	・すべての職員が分掌の枠を越え、特別支援や生徒指導等多様な生徒に対応できるようになることが重要である。
	3-(2)-② ○生徒の人権意識を高める。	・生徒一人ひとりの自尊感情を高める。 ・生徒のコミュニケーション能力を高め、対人関係づくり、他者理解の力を養う。	・人権HRの実施のほか、学校行事等により生きる力を養う。 ・ホームルーム時に人権作文を書かせる機会をつくる。 ・人権をテーマとした映画会を実施する。 ・人権HRだけでなく、さまざまな学校行事を通して、生きる力を養う。		A		
	3-(2)-① ○特別支援教育の向上に努める。	・支援を必要とする生徒の把握を職員間での情報共有を図る。	・家庭訪問や中学校訪問を実施して、支援を必要とする生徒の把握に努める。 ・職員会議時に研修会を開き、支援を必要とする生徒に関する情報の共有を図る。 ・授業等においては、担任と連携をしながら、分かる授業の展開に努める。 ・県主催の研修会等の案内、参加を呼びかける。		B	・学校、寮での人間関係や集団生活の難しさを克服するため、保護者、寮、学校との連携を今まで以上に密にすることが必要である。	
第1学年	3-(2)-③ ○基本的な生活習慣を確立させる。	・高校生としての自覚と基本的な生活習慣を身に付けさせる。	・家庭訪問や寮長（舎監）との面談を実施し、家庭や寮との連携を図り、欠席・遅刻の減少に努める。		C	・二学期中間考査以降問題事象が多くなり、寮、保護者連絡や家庭訪問等の回数が増えていった。中学との違いを自覚し高校生活を送る生徒がいる一方、未だに高校生としての自覚が持てない生徒がいる現状もある。 ・体調不良による欠席・遅刻だけでなく、心的な不安による欠席・遅刻もあった。寮とはそれぞれの様子等報告し合い対応ができた。	・普段から生徒の様子を見守り、1人1人に声をかけし意識を高める。また寮や保護者と連携し、教員間で情報を共有し生徒に関わる。 ・支援の必要な生徒や特性の理解が必要な生徒には繰り返し声をかけ続け、カウンセラーや外部機関と協力していただけの体制作りをする。
	1-(1) 1-(2)-② 1-(3) ○基礎学力を身に付けさせる。	・授業の大切さを理解させ、学習に取り組む姿勢の向上に努める。	・考査点だけでなく、日々の授業の様子や提出物等も成績として評価されることを理解させ、日々の授業を大切に、各科目の欠課時数を減らすとともに、ノート、プリント等の課題に積極的に取り組ませる。		C	・一学期当初は緊張感を持って授業に取り組んでいたが、二学期からは授業態度等悪くなる生徒もいた。提出物等考査を重ねるごとに取組が良くなる生徒がいる一方、注意を何度しても変化がない生徒もいた。	・授業や考査に対する取組は、繰り返し声をかけ、その意義や問題点を考えさせていく。日々の取り組みで目標を持ち、取組の結果から振り返りをさせ、自分の強みや課題を考えさせる。
第2学年	3-(2)-③ ○基本的な生活習慣の確立とともに規範意識を高める。	・きちんとした言葉遣い、身なり、礼儀作法を身に付けさせ、自律心を養う。	・家庭訪問や寮長（舎監）との面談を実施し、家庭や寮との連携を図り、欠席・遅刻の減少に努める。 ・担任が言葉遣い、身なり、礼儀作法を率先垂範する。		B	・三学期になって、自分の将来に向けて前を向く生徒も多くなり、遅刻も少なくなってくるなど自立に向けて意識が高まってきている。 ・同じ仲間と2年間過ごしてきた相互理解も進んできており、学級としてもお互いに協力して活動に取り組むことができるようになってきた。 ・2年間通じての職場体験を終え、体力、気力ともにたくましくなった生徒が多い。	・保護者の中には、子どもと良好な関係ができていないこともあり、学校、保護者、生徒、寮職員との相互理解が不十分になることもあった。情報の共有を心がけたい。 ・言葉遣いはまだ正しい敬語を使えていない生徒も多い。機会を捉えて教えていく。 ・厳しい実習に耐えかねて、実習を休んでしまう生徒もいた。何事にも忍耐は必須であることも伝えていきたい。
	2-(2)-③ 3-(2)-③ ○他人を思いやる心を持たせる。	・各自が2年生の一員であることを自覚させ、連帯感を持たせ、社会性を育む。	・日常的に生徒の観察を行い、状況に応じて適切に関与する。		B		
	1-(3) ○卒業後の進路を意識させる。	・職場体験実習等に積極的に参加させ、職業意識を持たせ、生きる力を育む。	・職場体験実習に全員の参加を促す。		B		
第3学年	3-(2)-③ ○規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・社会人として必要な礼儀作法や規範意識を身に付けさせる。	・場をわかまえ、他者を思いやる言動ができるようになる。 ・修学旅行などを通して集団行動、規範意識を身に付けさせる。		C	・さまざまな学習活動を通し、集団で話し合っ行動し発表などの表現活動につなげられる姿を日常的にみられるようになった。しかし、本意な事態になった時の態度・言動にはまだまだ	・就職・進学を目標として、それにふさわしい態度を身に付けさせるべく、目標・課題設定を行う。またその課題に対する成果の評価を、教員・生徒・保護者で共有できるよ
	1-(2)-① 2-(2)-③ ○学習方法と表現力の向上を	・学ぶ方法や学んだことの表現方法を身に付けさせる。	・座学、実習を関連させて学んでいるか、学んだ事柄を自分の言葉で伝えられるかの確認に努める。		B		

	<p>図る。</p> <p>1-(3) 3-(2)-⑤ ○進路目標を具体的にさせ、その実現に向けて取り組ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 進路目標を主体的に模索し、その実現に向けて取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路に関する希望や意志を随時確認する。 職場体験やオープンスクールに参加させる。 			B	<p>だ未熟さがある。</p> <p>・進路選択について各々が自分の問題として向き合えるようになってきたが、自己の現状に見合った現実的な進路選択をイメージできていない者も多い。</p>	<p>うにすることで、生徒が実態に合った進路を選択できるようにする。</p> <p>・進路指導部との情報共有をさらに密にすることで、適切な進路決定や課題設定を行えるようにする。</p>	
第4学年	<p>3-(2)-①③ ○最高学年としての自覚と責任をもたせるように指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 下級生の模範となる生活習慣・生活態度を確立するとともに、自身の生活習慣を振り返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間欠席総数の減少に努める。 			A	<p>・最高学年となり、就職などの進路実現という目標もあり、昨年度より総欠席は減少し、学校行事にも全員が参加できることが多かったが、個人に目を向けていくと、欠席が減った生徒もいるなか、逆に昨年度より大幅に増えた生徒もいた。就職試験や受験に向けて懸命に取り組み卒業後の進路は8名中6名が決定している。保護者とも密に連絡をとり、進路選択に活かした。進路決定後は、社会人としての心構えや言葉遣い・態度について指導していたが、なかなか身に付いていないことや、一部の生徒の学校生活での態度の悪化や欠席数の増加があったことも課題である。</p>	<p>・進路決定後、社会人としての心構えや言葉遣い・態度等の育成、登校に気を向けられるような支援や取組を行う。支援の必要な生徒もおり、保護者の意向の把握が重要である。4年生からではなく、3年時に保護者の意向を確認しておく。</p> <p>・最高学年として、他学年の見本となるような行動ができるよう普段の生活で継続した指導を行う。</p>	
	<p>1-(3) ○進路実現へ向けて充実した指導を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 正しい勤労観・職業観を養う。 生徒の適性や可能性を活かした進路指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者の考えを十分に踏まえた上で、進路指導を進める。 進路先のミスマッチがないように、必ず会社見学を行ってから試験に臨ませる。 			B			
	<p>1-(3) 2-(2)-③ ○社会人となるための心構えや態度の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の励行や時間を守ることの大切さを徹底するとともに、高校生としての服装や言葉づかいを指導し、卒業後に備えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 最高学年として、他学年の手本となれるような行動ができるようになる。 			B			
農業科	<p>1-(1) 1-(2)-② ○基本的な農業技術の定着を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実験実習を重視し、実践的な授業を展開する。 生徒が積極的に学ぶことができる、安心・安全な農場づくりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験実習を50%以上行う。 各分野の教材を80%以上整備する。 	70%	90%	A	<p>・科目に沿った実験実習を事故やケガもなく展開できた。</p> <p>・1・2年生の総合実習では、生徒の意欲に差が見受けられ、意欲の低い生徒では取り組み方に問題があった。また、受入農家から生徒の基本的な礼儀や取り組み状況についての意見をいただいた。</p> <p>・3・4年生では学校近隣農家での実習を実施することができた。</p> <p>・全学年で、西吉野幼稚園との交流学习を実施できた。</p> <p>・農業クラブの県大会に、プロジェクト発表1部門、意見発表3部門、農業鑑定競技会6名が、近畿大会にプロジェクト発表、意見発表1部門が、全国大会に農業鑑定競技会に1名が参加した。プロジェクト活動では、高校生ビジネスプランコンテストでベスト100に入賞した。FFJ検定(特級)に4年生が1名合格した。</p>	<p>・教材の計画から実施において、全国募集であることを活かして生徒の意見やアイデアを取り入れる等、生徒の興味や関心を高める工夫を模索する。</p> <p>・1年生の総合実習では、学校や寮の生活に適応し、基本的な道具の使用方法や礼儀などを指導する期間を設けるため、実習の開始時期を見直す必要がある。</p> <p>・農業クラブ活動への参加者増加を目指し、学外諸機関との連携を深める等活動内容の魅力向上に向け取り組む。</p>	
	<p>1-(2)-② 3-(2)-⑤ ○地域農業の状況や課題に関する学習内容の充実を図る。 ○地域農家での実習を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 農家での実習により、技術だけではなく、勤労観や経営観を育成する。 安全な食料供給、環境に配慮した栽培技術についての関心を高め、食育活動につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の農業関連施設での活動、実習を年間5回以上行う。 地元農家での実習を年間20回以上実施する。 	10回	20回	A			
	<p>3-(2)-④ 4-① ○農業クラブ活動の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各競技会にむけた取り組みを強化し、地域行事などに積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 県連盟競技会、発表会に3部門以上参加し、近畿大会に出場する。 地域の伝統行事に積極的に参加する。 			A			
家政科	<p>1-(2)-② ○基礎的技術の定着を図る。</p> <p>3-(2)-④ 4-① ○家庭クラブ活動の自主的参加を促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実習主体の授業を心がけ、体得的な学習によりやる気を起こさせ、基礎的な技術の定着を図り、能力に応じた技術の習得を目指す。 地域に密着した家庭クラブ活動を通じて、自主的に取り組む姿勢、社会性や奉仕の精神を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習を重視し、年間授業の1/3以上実習を行う。 家庭クラブ活動への参加率100%。 	1/2	100%	A	A	<p>・実習中心の授業ができ、検定も全員受検しそれぞれ被服製作、食物調理の分野で取得できた。家政科の閉設のまとめとして奈良県産業フェアで「家政科の歩み」の発表を行った。またその内容を産業教育振興会の研究論文に応募し優秀賞を受賞した。</p>	<p>・家庭クラブ活動の中で農業クラブや生徒会に継続できるものは伝えていく。</p>